

活部長の参加、また、会議運営支援者の参加を報告した。

*配布資料（事前に郵送している資料 3 点及び本日配布の資料 2 点、以上 5 点）の確認をした。

2 議事（設置要綱第 5 条に基づき、野上会長が議長となり進行）

(1) 平成 30 年度 会議日程と第 2 回協議内容について

議長：平成 30 年度 会議日程と第 2 回協議内容について、支援者より説明を求めた。

支援者：今回は、前回に引き続き、協議テーマについての全体協議を行い、本年度協議テーマを絞り込むこと、そして、次回以降の協議の進め方については、グループに分かれてのグループワークによる協議を予定することを説明した。

(2) 平成 30 年度 協議テーマの設定について

議長：平成 30 年度 協議テーマの設定について、支援者より説明をお願いします。

支援者：資料「平成 30 年度協議テーマの設定（案）について」に基づいて説明いたします。

前回の協議委員アンケートでは、本年度テーマ選定の方法として、昨年度協議の「南区の交流を促進するために」を深堀するテーマを設定したいとの意見が多数を占めました。そこで、昨年度協議のまとめにおいて、既存組織やネットワークの活用は、組織・分野・世代間を結びつけるとともに、南区の交流拡大の仕組みとして有効と考えられていることから、「既存組織やネットワークを活かした交流を拡大するために」を本年度協議テーマの方向性として捉え、昨年度協議内容を深堀していくテーマを選定していくことが考えられます。また、前回の協議テーマに関する意見の集約を踏まえ、3つの協議テーマ案を設定してみました。

A 案は、昨年度の協議結果・課題を深堀

B 案は、関心分野・課題で深堀

C 案は、交流の場づくりを深堀

A 案の検討イメージは、4 頁にあるように昨年度の協議結果から、児童生徒・高齢者が共に参加できるイベント創設、多様な層が防災活動に参加できる仕組みづくり、SSN を活用した多層による地域交流のベースづくりという 3 つの深堀課題を抽出し、課題ごとの取組アイデアを増やし、その具体化策を検討していくものです。

B 案の検討イメージは、7 頁にあるように関心分野を健康づくりのための交流、転入者との交流、顔の見える地域活動という 3 つに設定し、現状把握、既存組織の活用、交流拡大の方向性、そして取組アイデアの具体化策を検討していくものです。

C 案の検討イメージは、9 頁と 10 頁にあるように、交流の場をつくる⇒仕掛けをつくる⇒仕組みをつくるとそれぞれ交流の場ごとに検討を進めていくものです。

議長：協議テーマの設定ですが、前回会議での皆様の意見を踏まえ、A、B、C の 3 案を設定していただきました。それぞれのテーマ案ごとに、設定の背景・理由、協議の流れ、検討イメージがまとめられ、どのテーマを選択したとしても、次回以降の協議にスムーズに入っていけると思います。

本日議論する協議テーマの設定については、資料の 1 頁 (2) 深堀すべき課題を踏まえた協議テーマ（案）の設定に書かれているとおり、どのポイントを深堀するのか、深堀すべき対象を選択するという事ではないかと考えます。

これから、全体協議の中で、委員の皆様にご発言をいただきますが、どの案を支持するのか、なぜ、その案を支持するのか、このテーマ案は、こうするともっと良い内容になるのではないかと、といった観点でご発言くださるようお願いいたします。

委員 A：これが良いと固まったものが未だありません。

委員 B：B 案で選んでいきたいと思えます。特に顔の見える交流を進めるために、転入者との交流を重視したいです。

委員 C：この区民会議のゴールをどこに置くのかと関連します。私たちが企画に参画し、実現に向けていく過程の一部でも関わらないと意義がないのではないかとと思えます。区役所

からこれをやりなさいとか、これを考えなさいとか一方的なものではなく、私たちが実際に関われるものは何かを考えていきたいのです。また、実現性も考えなければならぬと思います。

委員 D：埼玉中央青年会議所のエリアは、さいたま市、上尾市、伊奈町と広いのですが、明るい豊かな社会の実現に向けて様々な活動をしています。先日は「第3回希望（ゆめ）のちからイルミネーション」を6月10日～6月23日の2週間、鐘塚公園で開催しました。18時から23時までLED9万球が点灯する光のトンネルでは、多くの来場者の笑顔が生まれ、改めてこういう事業は良いなあとなりました。昨年度のイルミネーション事業は、日本青年会議所の全国大会をさいたま市で開催したことから記念事業として、6月17日から10月15日の期間、氷川参道で開催し、3市町とさいたま市の教育員会及びPTA協議会の後援による実行体制をとりました。南区においても、例えばヒマワリフェスティバルのような継続事業にできるものが良いと思います。

議長：このような人が集まる新しい場づくりは良いなあと思います。

支援者：交流の場づくりとして、既存イベントに新たなプラスアルファの魅力を加えていく方法もあれば、南区ならではの独自の新たなものを作り出していく方法もあると思います。

委員 E：南区独自のものに期待したいです。

委員 F：人々が交わるところは、たくさんあると思うのです。B案の関心分野・課題で深堀すると意見も出やすいのではないかと思います。例えば、健康づくりは、区でも、地域の中でも既にいろいろやっていますが、高齢者主体になっています。そうではなく、子ども達を主眼にして人々の交流が深まることを継続できるようにしたいです。C案の多様な世代・組織がつながる交流の場づくりですが、どうしても関心があるものにしか人は集まらないのが現実とも思います。B案+C案のような感じですが、決めかねるのが現状です。

委員 G：区民会議は、予算が無い中で区に提言する機能を果たすわけですので、関心分野・課題で深堀する B 案だと絞りやすいのかなとは思いますが、区民会議から毎年度同じようなことを提言しているようにも思えます。前回で副区長から、深堀として交流のプロモーションを考えていくこともできるのではないかを言われましたが、なるほどと思いました。

委員 H：毎年、浦和競馬場で開催される区民まつり「南区ふるさとふれあいフェア」の内容を教えてください。

事務局：飲食・展示・協賛ブースなどを配置し、ステージでは公演を見たり聴いたりし、広場の中に子ども達の遊び場をつくっています。各種団体で実行委員会を組織し、運営スタッフとして500名ほどが携わっています。昨年（第15回）の入場者数は5万8千人で、10区の中で1、2を競っています。入場者の9割が南区民です。展示ブースでは、各種団体の活動紹介や様々な情報提供も行っており、例えば、フォトネットみなみブースでは、無料写真撮影に1,000人ほどの参加があり、撮影を毎年楽しみにしている方もいます。

委員 I：区民の交流の場として、もっと活かすことができそうですね。

委員 J：活動団体においては、区民まつりでのステージ発表が一大事になっています。人がいっぱい集まる時に、活動する仲間を発掘できることは大きいと思います。

委員 K：さいたま市市民活動サポートセンターフェスティバルでは、2日間に2万人の参加があります。浦和駅東口のパルコの上、コムナーレで開催する利点もあります。

委員 L：人集めが話題になっているようですが、笹目川の環境を守る会では、その活動内容を取り上げていただき、企業広告に織り込んでもらいました。その効果は誠に大きかったです。どのような手段で活動を情報提供し、活動への参画を促すことは、工夫、知恵いただいたように思います。地域の自治会にお願いしていくことも大事ですが、企業などを巻き込んでいく方法も必要です。

議長：笹目川の環境を守る会の活動は、年ごとに有名になってきました。活動に関心を持ち集まる人相互の交流によって、また活動が広がっているようです。

委員 M：A案、B案、C案のどれにすべきかの協議にもどっていきたいと思います。

交流を広めていくために何をすべきかの観点が重要と考えます。また、区民会議のこれまでの提言への対応状況も考慮していく必要があると思います。

- 委員 N：C 案の交流の場づくりを深堀していくことが良いと思います。スーパーなどの企業は、社会貢献で集客につなげています。企業をもっと利用し巻き込んでいくべきです。先日、別所沼公園の風の神前の広場へのヒマワリ植栽に参加しましたが、南区の花でありながら、植栽地は誠に狭く、風の神も泣いてしまうようでした。植栽できる土地はいくらでもあるのですから、例えば、自治会などに割り振って植栽する方法こそが必要ではないかと思えます。このように多くの人を巻き込んでいくことを区民会議は先導すべきではありませんか。所沢の航空公園のヒマワリは、はるかに素晴らしいのです。
- 委員 O：お互いのニーズのマッチングが交流とイコールであるはずですが、情報発信の交通整理が交流の場であると思えます。大規模な交流の場もあれば、小さなエリアでの交流の場も重要ですから、C 案が良いと思えます。
- 委員 P：南区を何とか活性化したいと思えます。区民会議では、そのためのブランド戦略、イメージ作戦で、区民意識の高揚を図っていきたいと思えます。交流の場づくりを考え、集まる仕掛け、参加する仕組みを考えていく C 案が良いと思えます。
- 委員 Q：南区に住んでいる人は、地元への関心が特に低いのではないかと感じます。中心となる商店街も無く、人々の日常生活の中に南区の観点が無いのが現状です。
- 委員 R：ウオーキングルートを探している人がいましたが、笹目川を川沿いに歩くことができることを知りませんでした。このような情報が一部の人にしか伝わっていないのです。
- 委員 S：B 案が良いと思えます。健康長寿のまちづくりに力点をおき、様々なことをやっていますが、関心分野で深堀し、的を絞った議論を期待します。
- 委員 T：B 案を含めた C 案が良いと思えます。交流の場づくりを考える中で、関心テーマを取り入れていけば良いと考えます。例えば、区民まつりをアピールの場として使ってもらいたいし、さくら祭りでも沿道スペースで PR していく場としていくことが期待されます。現実味のある提案にしていくことが必要と考えます。
- 委員 U：B 案に関心がありましたが、C 案が良いと思えます。提案で終えることなく、実現すること、実績が大事と考えます。また、交流を考える間口を拓けていくことも必要であり、C 案を意識しながら A 案とすることもできると思えます。
- 委員 V：C 案で協議すると交流に深みが出てくるのではないかと感じます。C 案は、A 案も B 案も取り入れていけます。どの案が良いかと多数決をとるよりも、これまでの意見をまとめてみてはいかがでしょうか。：

議長：C 案が賛同されていると思いますが、よろしいでしょうか。それでは、協議の進め方について支援者より説明いただきます。

支援者：本年度の協議テーマは、C 案「多様な世代・組織がつながる交流の場づくりのために」となりました。資料「平成 30 年度協議テーマの設定（案）について」8 頁からの C 案設定の背景、進め方などを順に確認します。

- ・テーマ設定の背景

前回・第 1 回会議で、交流を促進するインフラとして、「場」を設定して、交流拡大方策を深堀すべきとの意見がありました。既存のイベントや活動サークルなどの交流の場を設定し、それらを起点として組織・分野・世代間を結びつけ、南区の交流を拡大させることが考えられます。

- ・進め方（案）

多様な世代・組織がつながる交流の場づくりからスタートし、多様な世代・組織が集まる PR・広報などの仕掛けづくり、多様な世代・組織が参加する仕組みづくりなどを検討していくことが考えられます。

- ・協議の方法（案）

次回からは、グループワークによる協議を予定します。

グループワークでは、「多様な世代・組織がつながる交流の場づくりのために」という同じテーマで協議を開始し、第 3 回、第 4 回、第 5 回会議のグループ協議で意見を

し合い、他グループの協議内容も参考しながら進めていきます。

第3回：多様な世代・組織がつながる交流の場をつくる ⇒第4回：多様な世代・組織が集まる仕掛けをつくる ⇒第5回：多様な世代・組織が参加する仕組みをつくるといった流れを想定しています。

「交流の場をつくる」では、誰と誰の交流なのか、既存の場を活用するのか、新たな場をつくるか、交流イベントなどの単発型から定期・常設型か、などを検討していきます。

「仕掛けをつくる」では、誰に対してどのような情報発信・PRか、ネットワークを活かした集客方法、などを検討していきます。

「仕組みをつくる」では、他分野とのマッチングなど組織間の連携、世代間の連携、推進組織づくり、などを検討していきます。

なお、グループ編成については、事務局で検討させていただきます。

説明は以上ですが、次回からの進め方、運営へのご意見があればお願いいたします。

議長：ご意見が特にないようですので、本日予定しておりました議事を終了いたします。委員の皆様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。

—— 議事終了 ——

3 その他（事務局より）

・次回日程について

*第3回の日程について、平成30年9月5日（水）17:00~とすることで了承された。会場は南区役所1階 多目的室、後日改めて案内することとし、出欠についての返信もお願いした。

4 閉会

以 上